

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、一部で弱めの動きがみられるものの、個人消費等を中心に持ち直している。

前回の概況公表時（6月初旬）以降の県内景気を見ると、個人消費は着実に持ち直している。観光は増加している。設備投資は持ち直しの動きに一服感がみられるほか、住宅投資と公共投資は弱めの動きとなっている。この間、製造業の生産は一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。そうしたもと、労働需給面は緩やかに改善しているほか、雇用者所得は持ち直している。

先行きについては、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きの循環が続くもとで、持ち直しの動きが続くとみられる。ただし、①コスト上昇と価格転嫁の動向、②人手不足の影響、③海外経済の動向の影響等について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、弱めの動きとなっている。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、23/6月は前年を下回った（23/6月前年比：▲12.7%）。

設備投資は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

2022年度の設備投資額（23/6月短観）は、前年度を上回った（全産業前年度比：+2.7%）。

2023年度の設備投資額は、非製造業を中心に前年度の大型投資の反動がみられるが、維持更新目的やBCP対応等の投資を底堅く実施していくことが予定されている（同：▲19.9%）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過不足感（23/6月短観）は、過剰超となっている（生産・営業用設備判断D.I. <「過剰」－「不足」>、23/3月：+8→6月：+5）。

個人消費は、着実に持ち直している。

大型小売店¹、コンビニエンスストアの販売動向は、持ち直している。家電量販店の販売動向は、弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数（23/6月前年比：+19.7%）は、供給制約の影響が残るもとの、なお低めの水準となっている。旅行取扱高は、着実に持ち直している。

観光は、増加している。

23/5月の県内の主要観光施設への入込客数（23/5月前年比：+21.6%＜速報値＞）と主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+18.1%）は、ともに前年を上回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

23/5月の新設住宅着工戸数は、前年を上回った（23/5月前年比：+1.6%）。

2. 生産

製造業の生産は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。

機械、食料品は、一部でやや弱めの動きがみられるものの、全体では横ばい圏内で推移している。鉄鋼は、持ち直している。パルプ・紙・紙加工品、窯業・土石製品は、弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得

労働需給は、緩やかに改善している。

23/5月の有効求人倍率は、前月より低下した（23/5月：1.15倍）。

雇用者所得は、持ち直している。

23/4月の1人当りの現金給与総額は、前年を上回った（23/4月前年比：+1.7%＜速報値＞）。

4. 物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）は、生鮮食品を除く食料等が前年を上回ったため、前年比プラスとなった（23/6月前年比：+3.7%）。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（23/6月：倒産件数2件＜前年0件＞、負債総額450百万円）。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

6. 金融

実質預金(銀行、信金、信組)は、前年を上回っている(23/5月末残前年比: +1.2%)。

貸出(同)は、前年を上回っている(同: +0.5%)。

貸出約定平均金利(銀行、信金)は、前月を下回っている(23/5月: 1.225%)。

以 上

【本文中の使用計数等の出所】

- ・ 乗用車新車登録台数: 四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数: 高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数: 国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額: 西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率: 厚生労働省「一般職業紹介状況」、現金給与総額: 高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価(高知市、生鮮食品を除く総合): 総務省「消費者物価指数」、企業倒産: 東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。
- ・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・ なお、利用統計は公表月によって異なる。